

戦争 版に刻む記憶

2017

6/24 sat → 7/23 sun

〔休館日〕月曜休館、ただし7月17日(海の日)開館、翌18日(火)休館

〔開館時間〕平日 10:00～17:00(入館は16:30まで)

土・日・祝日 10:00～17:30(入館は17:00まで)

〔入場料金〕一般 600(500)円、大学・高校生と65歳以上 300(200)円、中学生以下無料

●()内は20名以上の団体料金 ●展覧会初日6/24(土)は入場無料

●身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳または愛の手帳(療育手帳)をお持ちの方と付き添いの方1名は半額



Y son fieras

Francisco Goya フランシスコ・ゴヤ (1746-1828)『戦争の惨禍』より



 町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都町田市原町田4-28-1 公式サイト <http://hanga-museum.jp/>

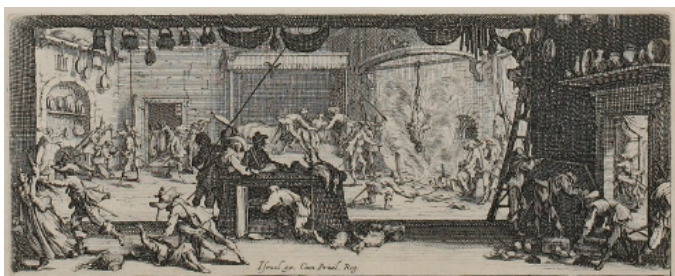
お問合せは町田市イベントダイヤル 042-724-5656

戦争 版に刻む記憶

戦争の悲惨な光景を、画家はくりかえし版に刻んできました。その中でも代表的な作品とされるのが、今回ご紹介する3組の銅版画集です。

3人の画家は異なる時代を生きました。それは、戦争のあり方や美術表現の方法の違いとして作品に反映されています。その一方で、彼らは共に「戦争」という主題にひきつけられ、その惨状を詳細に版に刻んでいます。それははたして、戦争の悲惨さを後世に伝え、人間の愚かさを訴えかけるためだけだったのでしょうか——なぜ画家は「戦争」をくりかえし版に刻むのか、120点の作品で考えます。

©VG BILD-KUNST, Bonn & JASPAR, Tokyo, 2017 E2581



Jacques Callot ジャック・カロ (1592-1635) 『戦争の惨禍』より／1633年刊

金で雇われた傭兵達の非道ぶりとその末路…

17世紀、ヨーロッパ諸国を巻き込んだ三十年戦争。主力となった傭兵は、忠誠心でも祖国愛でもなく、金銭のために戦った。彼らによる掠奪行為はとどまるところを知らず、放火、凌辱、殺人、非道の限りが尽くされた。その報いは悲惨な末路。傭兵たちの運命を、カロは舞台のような画面に淡々と描いていく。



Otto Dix オットー・ディックス (1891-1969)
『戦争』より／1924年刊

志願兵となった若者は塹壕の泥の中に朽ちる

第一次世界大戦で戦ったのは、徴兵された国民だった。祖国愛と高揚する気分に突き動かされ、多くの若者は自ら望んで戦場に行った。機関銃や毒ガス、新たな兵器が登場した戦場で、砲撃に打砕かれて、彼らは塹壕の泥の中で死んでいった。戦場の忌まわしい記憶は一兵士として戦ったディックスを苦しめ続ける。

Francisco Goya フランシスコ・ゴヤ (1746-1828)
『戦争の惨禍』より／1810-20年制作

フランス兵は、ゲリラと化した民衆を恐れた

19世紀の半島戦争、スペイン民衆のナポレオンへの怒りは、血みどろのゲリラ戦に展開した。大規模な戦闘は起こらなくても、日常的に繰り返される虐殺や略奪。見えない敵に怯え、暴力の応酬は止まるところを知らない。スペイン民衆とフランス軍、ゴヤはどちらの行為にも客観的な目を向け、執拗に描きとめていく。



〔関連催事〕

館長によるスペシャル・ギャラリー・トーク
7月9日(日)

学芸員によるギャラリー・トーク
6月25日(日)、7月17日(月・祝)

*各日14:00から45分程度。観覧券をご用意のうえ、
2階企画展示室入口にお集まりください。

山口友由実氏による
プロムナード・コンサート(ピアノ)
7月8日(土)

①13:00～②15:00～(各回30分程度)
エントランスホール

*どなたでもご鑑賞いただけます。
お席の用意はございません。



〔同時開催〕

シリーズ現代の作家 船坂芳助
6月21日(水)～9月24日(日)
常設展示室

町田市立国際版画美術館 第1企画展示室

〒194-0013
東京都町田市原町田4-28-1
Tel. 042-726-2771/0860
公式サイト <http://hanga-museum.jp/>

お問合せは
町田市イベントダイヤル 042-724-5656

◎小田急線・JR横浜線町田駅から徒歩15分



町田市立国際版画美術館